

2017 年 6 月 29 日

「VISERA ELITE II」システムに対応した より迅速で正確な手術をサポートする外科手術用 3D 内視鏡を発売 世界初※1 独自機構により、2D 製品と同様の使用感で豊かな 3D 映像を観察

オリンパス株式会社(社長:笹 宏行)は、3D 観察により奥行き感の把握が容易になり、迅速で正確な内視鏡外科手術をサポートする「ENDOEYE 3D 硬性ビデオスコープ」を 2017 年 6 月末から日本で発売します。

内視鏡外科手術は、患者さんの身体への負担が少なく回復が早い、低侵襲治療として、日本では 1990 年代から急激に増加してきました。近年は、大腸切除術や胃切除術などの高度な技術を要する難易度の高い手術にも広がりを見せており、これら手術を安全安心に実施するためには奥行き感の把握が重要になっています。

本製品は、2017 年 3 月に発売した外科手術用内視鏡システム「VISERA ELITE II(ビセラ・エリート・ツー)」に接続して使用する外科手術用 3D 内視鏡です。平面的な 2D 映像では困難だった対象臓器の立体的な把握が 3D 映像では容易になり、より迅速で正確な内視鏡外科手術の実現をサポートします。また、内視鏡を回転しても天地を保ったまま観察が可能となるよう工夫を施し、使いやすさを向上しました。

当社既存の外科手術用 3D 内視鏡システム※2 では、2 台のビデオシステムセンターと、3D ビデオプロセッサー、光源装置が必要でした。本製品は、これらの機能を一台に集約した VISERA ELITE II ビデオシステムセンターに接続し、3D 観察が可能です。必要機材を減らすことで、医療従事者にとって使い勝手の向上と初期投資にかかる医療コスト削減を実現しました。

また、VISERA ELITE II は 3D だけでなく、IR(赤外光)※3、2D、NBI※4 まで多様な観察方法に対応可能です。同時に、多様なカメラヘッドとビデオスコープとの幅広い互換性を有しており、汎用性の高いユニバーサルプラットフォームとして病院内での効率的なシステム運用の実現に貢献します。

※1 2017 年 6 月 29 日現在、硬性ビデオスコープの 2CCD 方式において

※2 2013 年 4 月発売 ※3 InfraRed ※4 狭帯域光観察(NBI:Narrow Band Imaging)

●発売の概要

販売名	発売予定時期
ENDOEYE 3D 硬性ビデオスコープ	2017 年 6 月末※5

※5 欧州とアジア一部地域では 2017 年 1 月に先行発売済み

●主な特長

1. 3D 観察では奥行き感の把握が容易になり、迅速で正確な手術をサポート

奥行きのある 3D 映像で、2D 映像では難しかった対象臓器の立体的な把握をサポートし、手術の精度向上と時間短縮に貢献します。例えば、縫合時に針の向きがわかりやすく見え、刺したい部分への的確なアプローチに貢献するなど、迅速で正確な手術が期待できます。また、ビデオスコープ先端には高解像度イメージセンサー(CCD)を 2 枚搭載しており、高精細かつ豊かな立体感の 3D 映像を提供します。

2. 内視鏡を回転しても、モニター画面上では天地を保ったまま観察が可能

内視鏡外科手術では、内視鏡を動かしたり回転したりすることで、見えやすさを確保することが重要です。本製品は、先端 2CCD 方式を採用しながらも、独自機構により内視鏡を回転した際でもモニター画面上で天地を保ったまま観察することが可能です。この世界初の技術により、豊かな立体感のある 3D 映像を、使い慣れた 2D 製品と同様の感覚で観察することが可能です。



ENDOEYE 3D 硬性ビデオスコープ

製造販売元はオリンパスメディカルシステムズ(株)です。

本リリースに掲載されている社名及び製品名は各社の商標または登録商標です。